

学年 第1学年

時間 1時間

題材 O 575 「静物」 アレクサンダー・カーノルト作 1925年制作 油彩・画布

題材について

第1学年の生徒は美術作品を教材とした独立した鑑賞活動で、作品を見てそこからなにかを考えていくという経験も少ないと思う。

「静物」は日常的なモチーフと写実的な描法で描かれており、美術を学び始めたばかりの第1学年の生徒にも取りかかりやすい作品である。まず、絵をスケッチさせて印象づけ、第一印象をメモさせることで絵の世界に自然に入っていけるように考えた。

写実的な作品でありながら絵全体を見ると不思議な雰囲気を持っており、そこからさまざまなことが連想されてくるであろう。

子どもは絵を見るときに物語を作ると言われている。そこでこの作品の鑑賞にも自分でこの絵から物語を作る活動を取り入れてみた。

自由に発想を広げて物語を作ること、絵の見方の一つの方法を体験させ、友だちの作った物語を交流することで見方、感じ方を広げさせることができると考えた。

美術館に行っても何を考えて見ていいのか分からない、と考えている生徒も多いと思う。そういった生徒たちに自分なりの見方で絵を鑑賞することができるようになるきっかけを与えることができるのではないだろうか。

指導要領との関連

[第1学年] 2内容 B鑑賞 ア A表現ア、イ

目標

- ・ 絵の持つ雰囲気から自分なりのイメージをつかみ物語として表現したり、作品に込められた作者の心情や制作意図を考えたりすることで、さまざまな鑑賞活動があることを理解できるようにする。
- ・ 友だちと物語や意見を交流し合うことで、一人一人が違ったイメージや感じ方を持つことを理解できるようにする。

学習展開（鑑賞）

学習活動（予想される生徒の反応）	学習内容	指導上の留意点
作品の簡単なスケッチをする。 作品をじっくり鑑賞し、感じたこと、どこからそう感じたかを発表する。 ・ 静かな感じ。冷たい感じ 色遣い ・ 写真のよう 影の付け方や立体感、形の捉え方 ・ 落ち着いた感じ 見た目の雰囲気、色遣いなど ・ 不安な感じ 色遣い、黒っぽいカーテンや ものの置かれ方など 絵から物語などを想像してみる ・ ワインを飲みながら本を読もうとしていたが... ・ カーテンの向こうには... 置かれているひとつのものに注目した	作品をじっくり見せる。 意見が出にくい時は、見るポイントを決めて考えさせる。 ・ 形はどうですか？何が置いてあるか分かりますか？そっくりに書かれているかな？ ・ 見ていてどんな気持ちになりますか？ 自由に想像を広げさせる。 いろいろな見方ができることに注目させる。 生徒の発表をまとめる形で	じっくり鑑賞をしているか。 自分の意見を積極的に発表しようとしているか。 人の意見をしっかり聞いているか。 いろいろな考え方を共感を持って聞くことができているか。

<p>り、全体をもう一度じっくりと見たりして作者が作品に込めた気持ちを想像してみる。</p> <p>説明を聞き、感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにでもあるようなものの中に美しさを感じる ・写実的な表現（形、陰影） ・特徴的な色遣い ・構図について <p>などを説明する。</p> <p>作者や作品の描かれた時代背景について簡単に説明をする。</p> <p>鑑賞の仕方にはいろいろな方法があることを説明する。</p>	<p>自分の意見や、友達の見解を聞いて、絵を鑑賞した感想を簡潔にまとめることができているか。</p>
--	---	--

準備物

(鑑賞) ・作品の複製品 ・ワークシート

<p>参考文献・資料</p> <p>広島県立美術館コレクション選 広島県立美術館 1996年</p> <p>広島県立美術館ワークシート「静物」</p>

鑑賞ワークシート

平成	年	月	日()	曜日
第1学年 組 番 氏名				

枠の中に簡単にスケッチをしましょう。



作品の題名
静物

作者
アレクサンダー・カーノルト

描かれた年
1925年

絵を見て感じたことを書きましょう

自分の意見 どこにでもありそうなものが描かれているなと思った。 ちょっと暗い感じの絵だと思った。 人の気配がない、不思議な感じの絵だと思った。 影とかがついていて本物みたいに描かれていてすごい。
友達の見解(メモ)

どこからそう感じたか考えてみましょう

自分の意見 人が支えているわけじゃないのにページが立っていて不思議。 ページが立っていて、カーテンが机に掛かっているから風が吹いている。 小さい机に、大きい植物や本や飲み物があるので釣り合い。 生きていないみたいで不気味。
友達の見解(メモ)

この絵から物語を作ってみよう

家には日常に使うものしかない。世界大戦に敗れ、物価も高くなるばかりだった。机の上の本が唯一のなくさめだった。私が幼い頃、私の両親が誕生日の夜、私がいつもほしがっていた本を枕元に置いてくれた。

今では両親も身よりもいない。そして私は大人になった。また新しい一歩を踏み出すため、私はドアを大きく開け、大地を踏みしめるようにつけ出した。

カーテンのうしろには風の妖精がいて、本などを動かして遊んでいます。

木の葉っぱをすべり台にしたり、ジュースのプールで泳いだりしてとても楽しそうです。

人が来ると見つからないように、つぼの中に入れてかくれます。

人がいなくなるとまた、楽しそうに遊びます。

いまは風の妖精は1人しかいないけど、いつか風の妖精でいっぱいになって、もっと楽しくなるはずです。

ある日、透明人間が誰かの家に入ってきました。透明人間は息を強くはきました。すると本のページがパラパラとめくれました。透明人間は普通の人間になりたいと思っていました。

透明人間がふと机の上を見ると、コップ一杯分の不思議な色の飲み物がありました。その飲み物からは不思議なおいしそうなおいがしました。

透明人間は初めて見たおいしそうなおい飲み物を飲んでみました。すると体中に暖かいエネルギーがわいてきて、体に色がついて普通の人間になれました。

実はその家の人の正体は魔女だったのです。

この絵を描いたときの作者の気持ちを想像してみよう

戦争なんて早く終わってほしい。なぜ人を殺さなくてはならないのだろう。人々が苦しむのをもう見たくない。

一人でさみしくて、仲間がほしい。

自分や自分の人生がいやになって、時間を止めたかった。

どんなにつまらないような物でもしっかりと見てみればなにかを感じられる。

世界を平和にしたい、この絵のように穏やかに。

植物は戦争もせずいきいきと生きている。その生きる姿が素晴らしいと思ったのではないかな。

授業の感想

物語を作るのが楽しかったです。絵にはその人の思い入れはあるけれど、自分で考えると楽しかったです。今日見た絵は不思議な絵でした。物語を書くのはおもしろかったです。

みんなの物語などを聞くのが楽しかった。1つの作品で考えることが多くあることが分かりました。

物語を書いたり、スケッチしたり、作者の気持ちを考えてみるなどめったにないことでワクワクした。写生するのは好きなので、楽しかったです。